

第5章 生涯学習

- 第1節 生涯学習の推進
- 第2節 社会教育の推進
- 第3節 青少年教育
- 第4節 成人教育
- 第5節 視聴覚教育
- 第6節 宮城県図書館
- 第7節 宮城県松島自然の家
- 第8節 宮城県蔵王自然の家
- 第9節 宮城県志津川自然の家

第1節 生涯学習の推進

社会環境の急激な変化の中にあつて、県民一人ひとりが、自己の充実や生活の向上と望ましい地域社会の形成を目指し、生涯にわたつても、どこでも必要な学習ができるように、生涯学習の視点から社会の各種学習機能を総合的に整備充実し、支援者を養成するとともに、学習の機会を提供することが重要な課題である。

このため、本年度は生涯学習推進の一環として次の事業を行った。

1 宮城県生涯学習審議会

第7次生涯学習審議会では、東日本大震災の発生により生涯学習を取り巻く環境が変わってしまったことを踏まえ、「震災からの復興に向けた生涯学習活動推進の在り方」をテーマとして、復興に向けた生涯学習活動推進の方向性について議論した。

会議の日程及び内容

会議名等	開催月日	内 容	場 所
第1回会議	平成23年 9月7日	○「(仮称)宮城県生涯学習関連施策」の取扱いについて	宮城県 行政庁舎
第2回会議	平成23年 11月21日	○「震災からの復興に向けた生涯学習活動推進のあり方」構想の基本方針について	宮城県 行政庁舎
第3回会議	平成24年 1月30日	○「震災からの復興に向けた生涯学習活動推進のあり方」について	宮城県 行政庁舎
第4回会議	平成24年 3月22日	○「震災からの復興に向けた生涯学習活動推進のあり方」【審議内容のまとめ】について	宮城県 行政庁舎

第5-1表 第7次宮城県生涯学習審議会委員名簿
(平成23年4月1日現在)

No	氏 名	役 職 名
1	赤間 裕子	フリーキャスター
2	浅野 元	大和町長
3	五十嵐りか	児童相談員
4	石井山竜平	東北大学大学院准教授
5	笠松 洋子	富谷町立富谷小学校教諭
6	兼平 敏子	NPO法人みやぎ生涯学習指導・支援センター理事
7	櫻中 辰則	村田町教育委員
8	鈴木 悟	宮城県古川高等学校長
9	梨本雄太郎	宮城教育大学教授
10	松村真理子	NPO法人学割net
任 期 ・平成22年10月1日から平成24年9月30日まで。		

2 みやぎ県民大学推進事業

(1) 高等学校・専門施設・大学開放講座

県民の多様な学習要求にこたえるため、高等学校、専門施設、大学の持つ専門的教育機能を活用して、一般教養・専門的知識・技能などの学習機会の提供に努めた。(第5-2表)

第5-2表 平成23年度みやぎ県民大学学校等開放講座開催状況

高等学校開放講座

実 施 機 関	講 座 名	開 催 期 間	回数	受講者数
宮城県古川高等学校	親子で楽しむ食生活3	8/6 ~ 11/5	4	13
宮城県村田高等学校	科学を通してみる歴史	6/25 ~ 9/17	4	29
宮城県宮城広瀬高等学校	水彩画「花を描く」	8/18 ~ 8/20	3	2
宮城県仙台北高等学校	項羽と劉邦～激動の時代のリーダー像に迫る～	8/8 ~ 8/11	4	9
宮城県利府高等学校	スポーツ医学	5/11 ~ 2/15	25	4
宮城県利府高等学校	運動生理学	6/10 ~ 2/10	15	3
宮城県蔵王高等学校	広げよう仲間づくりの引き出し！～みやぎアドベンチャープログラムから～	11/26	1	7
宮城県迫桜高等学校	文学講座	10/14 ~ 12/2	4	5
宮城県迫桜高等学校	学んで帰る カエルパズル	8/7 ~ 9/11	4	4
宮城県東松島高等学校	自然の風景を創ってみませんか？～誰でも簡単に創れるミニ盆栽・マン盆栽～	7/9 ~ 9/3	4	7
宮城県東松島高等学校	『オリジナル陶器の制作』～全ての工程を自分の手で～	9/17 ~ 10/22	5	2
宮城県柴田農林高等学校	農業！エコ・セラピー！！	6/25 ~ 12/10	3	15
宮城県加美農業高等学校	休日の畑遊び6	5/28 ~ 10/30	6	23
宮城県小牛田農林高等学校	自然体験しませんか？～里山を満喫しよう～	10/15	1	24
宮城県白石工業高等学校	身近にある化学	10/16 ~ 10/23	2	18
宮城県白石工業高等学校	世界でひとつだけのキーホルダー製作～金属の加工～	10/23 ~ 11/6	3	6
宮城県白石工業高等学校	木工教室 (ペン立て・スノコをつくらう)	11/8 ~ 11/10	3	16
宮城県古川工業高等学校	化学技術の世界にふれてみませんか	7/2 ~ 7/16	3	33
宮城県大河原商業高等学校	上手なインターネットの歩き方	8/2 ~ 8/5	4	17
宮城県鹿島台商業高等学校	パソコンフル活用 仕事に趣味に必要なパソコン実務教室	7/5 ~ 7/26	4	25
宮城県一迫商業高等学校	パソコン開放講座	8/3 ~ 8/4	2	7

(16高等学校21講座)

(計269人)

専門施設開放講座

実 施 機 関	講 座 名	開 催 期 間	回数	受講者数
宮城県図書館	叡智の杜を訪ねて	11/5 ~ 11/26	4	34
宮城県美術館	宮城県美術館コレクション散歩3	1/14 ~ 2/4	4	94

(2施設2講座)

(計128人)

大学開放講座

実施機関	講座名	開催期間	回数	受講者数
東北大学大学院文学研究科	人間理解の方法論	9/12 ～ 9/17	6	37
東北大学大学院経済学研究所	大学院で教える「管理者の役割とリーダーシップ」	9/1 ～ 9/22	4	58
東北大学大学院歯学研究所	楽しい生活のためにがんばっているお口	9/3 ～ 10/1	5	34
東北大学大学院工学研究科附属防災制御研究センター	やさしく学べる防災・減災の基礎知識	8/27 ～ 9/3	2	105
東北大学大学院農学研究科	「世界・日本の農と食」	8/24 ～ 9/21	5	47
東北大学大学院環境科学研究科	地球と地域のエネルギーと将来	10/1 ～ 11/12	4	37
東北大学金属材料研究所	地球にやさしいエネルギーとエコ材料～太陽電池から水素まで～	8/23 ～ 8/26	4	31
東北大学流体科学研究所	ながれ	8/26 ～ 9/30	5	51
東北大学多元物質科学研究所	グリーンテクノロジーのための材料とデバイス	7/1 ～ 8/5	6	28
宮城教育大学	能と日本文化	9/10 ～ 11/5	5	47
宮城教育大学（白石市会場）	「水と暮らし」をテーマに身近な環境を考える	7/2 ～ 7/23	4	5
東北福祉大学	古城を歩こう	10/7 ～ 11/5	6	28
東北生活文化大学	美の断面（素材・技法・コンセプト）	10/8 ～ 11/19	4	17
尚絅学院大学	海外で学ぶことの意義について	9/19 ～ 10/17	3	37
仙台大学	自宅でできる簡単健康福祉術	6/17 ～ 7/8	4	61
石巻専修大学	「復興の道標（みちしるべ）」	9/29 ～ 10/27	5	79
宮城誠真短期大学	うるおいのある生活を求めてパート2	8/31 ～ 10/5	6	22

(8大学17講座)

(計724人)

自主企画講座

実施機関	講座名	開催期間	回数	受講者数
	(平成23年度は震災により開講中止)			

(0団体0講座)

本町分庁舎 37人

(2) 生涯学習支援者養成講座「入門編・実践編」

県内の各市町村や社会教育機関・団体・民間等で生涯学習に意欲のある方を対象に、専門的な学習講座や演習の場を通して生涯学習支援者を養成するための講座を開設した。

○実施期間及び回数

入門編 11月～12月 6回

実践編 6月～9月 6回

○参加の状況

入門編 15人 実践編 27人

○修了者の名簿を作成し、市町村、関係団体などに配布し、その活用に努めた。

(3) 生涯学習活用出前講座

生涯学習支援者養成講座の修了者等を講師として、参加・参加型の学習機会に対する需要の高まりに対応した学習機会を県民に提供し、各地域における生涯学習の推進に寄与するとともに、生涯学習成果の活用促進を図ることを通じ、創造性豊かな社会の実現を目指すため講座を開設した。

○開設市町村

白石市 (10月13日～11月1日) 4回65人

村田町 (9月6日～9月27日) 4回20人

利府町 (12月14日～1月18日) 4回19人

大和町 (9月14日～10月12日) 4回35人

協働教育研修会（教育事務所毎に開催）

8月31日 大崎地区協働教育研修会 103人

9月2日 栗原地区協働教育研修会 76人

9月28日 南三陸地区協働教育研修会 71人

11月5日 大河原管内社会教育推進大会・協働教育研修会

276人

11月17日 東部・登米管内協働教育研修会

132人

11月26日 宮城県PTA指導者地区研修会・協働教育研修

(仙台地区) 140人

12月7日 大河原管内協働教育実践事例研修会 95人

○協働教育ネットワーク研修会

3月21日 漁信基ビル 37人

② 協働教育普及・振興事業

協働教育推進にあたって功績のあった個人・団体や事業所等を表彰する。多様な担い手の協働による地域全体で子どもを育てる体制づくりの環境を整える。

○平成23年度協働教育功績表彰（表彰式平成24年4月20日）
被表彰団体4、被表彰者6

○ホームページ、報道機関を通じた広報活動

○協働教育プラットフォーム事業実施市町訪問

○各種会議等での事業PR、啓発（社会教育主事会議、市町村等生涯学習主管課長・担当者会議等）

○県PTA連合会等関係団体との連携、県P連活動計画への協働教育の位置づけ、協働教育研修会の地区PTAとの共催(仙台)

③ 教育応援団事業

子どもの教育活動を支援する個人や企業等を「みやぎ教育応援団」として認証・登録し「教育応援団リスト」を作成して学校等にホームページを作成し情報を提供した。また、ロゴマークやリーフレットを作成し企業・大学、NPO等に対する加入の働きかけ（郵送・訪問等）を実施した。

また、教員、PTA、子ども会育成会の会議を通じて利用の促進活動を行った。

登録企業・団体 188件

3 家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成

(1) 協働教育推進総合事業の実施

震災により、家庭・地域・学校がともに大きな被害を受け、子どもを育てる環境が大きく損なわれた。そのため家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくりを推進して、家庭・地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で子どもを育てる体制の整備を図った。

① 協働教育基盤形成事業

学校・地域・家庭の連携・協働を促進するための研修会等を実施した。

○コーディネーター養成研修会

8月22日 自治会館 95人

1月16日 石巻市桃生公民館 62人

1月18日 仙台合庁 54人

1月31日 地域活動支援指導者養成講座
志津川自然の家 18人

2月7日 地域活動支援指導者養成講座

④ 協働教育プラットフォーム事業

家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを行い、地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で子どもを育てる環境の整備を図った。

平成23年4月から12月までは県の補助事業（県は補助対象経費1/2負担、補助費上限50万）であったが、東日本大震災のため平成24年1月から「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として国の委託事業（10/10）を受けた。

【補助事業】（平成23年4月～12月）

- 事業実施市町 3市8町（市町へ補助金）
角田市，東松島市，大崎市，大河原町，村田町，川崎町，大和町，大郷町，富谷町，涌谷町，女川町
- ① 市町村協議会の設置
 - ・市町村内の協働教育事業の企画立案
 - ・コーディネーターの養成
 - ・支援ボランティアの養成
- ② 活動内容（補助期間3年間で3つの内容に取り組む）
 - ・家庭教育支援
 - ・地域活動支援
 - ・学校教育支援

【委託事業】（平成24年1月～3月）

- 県補助事業実施の際、補助期間3年を確約している。委託期間終了後、県補助事業として2年間、または、3年間支援や指導を実施する。
- 事業実施市町 5市10町（国庫）
角田市，東松島市，大崎市，栗原市，気仙沼市，蔵王町，大河原町，村田町，柴田町，川崎町，大和町，大郷町，富谷町，涌谷町，女川町
- ① 市町村協議会の設置
 - ・市町村内の協働教育事業の企画立案
 - ・コーディネーターの養成
 - ・支援ボランティアの養成
- ② 活動内容
 - ・コーディネーター等による地域の学びの場の提供
 - ・家庭教育支援
 - ・地域活動支援
 - ・学校教育支援

(2) 放課後子ども教室推進事業

県内の小学校区において、すべての子どもを対象とし、放課後や週末等に子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々の参画（ボランティア活動等）を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等を実施することにより、子どもたちが地域の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進した。

平成23年4月から12月までは放課後子どもプランとして国の補助事業（国1/3，県1/3，市町村1/3）であったが、東日本大震災のため平成24年1月から「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」として国の委託事業（10/10）を受けた。

【補助事業】（平成23年4月～12月）

- ①放課後子ども教室推進事業 5市9町50教室
（白石市，多賀城市，岩沼市，登米市，大崎市，大河原町，丸森町，山元町，富谷町，大和町，色麻町，美里町，加美町，涌谷町）
- ②放課後子ども教室備品整備事業 1市1町7教室
（登米市，涌谷町）
- ③放課後子ども教室指導者研修・推進委員会事業
 - 放課後児童クラブ指導員等ブロック研修会
（8/26登米市 33人， 8/30大和町 17人， 9/14柴田町 21人
9/30仙台市 1人 計72人）
 - 宮城県放課後子ども教室指導者等研修会
（11/14 宮城県総合運動公園セキスイハイムスーパーアリーナ 90人）
 - 宮城県放課後子どもプラン連絡調整会議の開催
（7/28 県庁10人 3/29 県庁9人）

【委託事業】（平成24年1月～3月）

- ① 放課後子ども教室推進事業 5市11町1村 55教室
（白石市，多賀城市，岩沼市，登米市，大崎市，大河原町，丸森町，山元町，富谷町，大和町，色麻町，美里町，加美町，涌谷町，松島町，女川町，大衡村）

第2節 社会教育の推進

1 市町村の社会教育行政

生涯学習社会に向けて、地域住民と直接的な関わりをもつ市町村の果たす役割は大きく、社会教育の推進体制の充実が強く望まれている。

特に、社会教育の指導体制の強化を図るため、職員の適正配置・専任化の促進について働き掛けるとともに、社会教育主事の派遣を行った。

- (1) 市町村社会教育関係職員数は、教委事務局502人・公民館職員1,097人（職員の専任408人）・図書館職員217人・視聴覚教材センター職員49人の計1,865人である。なお、市町村における社会教育主事の配置率は94.3%である。また、社会教育指導員の配置市町村は20市町村で36人と昨年度より1人増えている。（第5-2表参照）

市町村の要請に応じて県教委任命の社会教育主事11人を2市（栗原1、気仙沼1）、8町（柴田1、大河原1、川崎1、大郷1、山元1、色麻1、涌谷1、女川1）、1広域（大崎広域1）に派遣し、市町村の社会教育行政における指導体制の充実強化を図った。

- (2) 社会教育委員は35市町村に設置されており、371人で1教委当たり10.6人となっている。
- (3) 公民館等は247館・職員1,097人で1館平均4.4人と微減した。公民館運営審議会は7市町に設置され、80人が配置されている。県市町立図書館は32館あり、専任職員は217人（司書、司書補85人）1館平均6.8人となっている。

2 社会教育委員の会議

第31次宮城県社会教育委員の会議意見書「家庭・地域・学校が連携・協働して子どもを育てる環境づくり～地域全体の教育力の再構築について～」を教育委員会に提言した。

会議の日程及び内容

会議名等	開催月日	内 容	場 所
第6回会議	平成23年 6月1日	○東日本大震災による社会教育への影響について ○平成23年度生涯学習課所管事業について ○意見書作成に向けて	宮城県 行政庁舎
第7回会議	平成23年 7月26日	○テーマについての再確認 ○意見書骨子案についての審議	宮城県 行政庁舎
現地聞き 取り調査	平成23年 9月6日 9月7日	現地聞き取り調査 9月6日：名取市、川崎町 9月7日：栗原市、山元町	
第8回会議	平成23年 11月29日	○聞き取り調査のまとめとレポート作成について	宮城県 行政庁舎
第9回会議	平成23年 12月27日	○第31次意見書素案について	宮城県 自治会館
第10回会議	平成24年 2月7日	○第31次意見書最終案について	宮城県 自治会館

3 研修事業

- (1) 社会の進展に伴う県民の学習要求の多様化・高度化に対応し、研修内容を体系的に編成し社会教育関係職員の専門性、指導力の向上を図るため、次の研修を実施した。（第5-4表参照）
- (2) 社会教育専門職員・団体などの中核的指導者を養成するために国や大学が行う各種講習会・研修会・講座への参加を積極的に進めた。

第5-3表 社会教育関係職員数 (単位：人)

教 育 事 務 所 等	市 教 町 委 村 等 数	社会教育主事				公民館職員			
		専任	派遣	兼任	計	専任	兼任	その他	計
大河原	9	14	3	5	22	22	44	136	202
仙 台	13	10	2	6	18	68	77	44	189
北 部	5	3	2	4	9	15	88	48	151
北部栗原	1	4	1	0	5	0	10	0	10
東部登米	1	1	0	0	1	1	21	0	22
東 部	3	1	1	3	5	14	39	1	54
南三陸	2	2	1	5	8	16	11	13	40
仙台市	1	0	0	3	3	272	14	143	429
広 域	4	0	1	1	2	0	0	0	0
計	39	35	11	27	73	408	304	385	1,097

第5-4表 第31次宮城県社会教育委員名簿

(平成23年6月1日現在)

No	氏 名	役 職 名
1	石 垣 政 裕	みやぎお父さんの会ネットワーク世話人
2	伊 藤 治 彦	宮城県青年団連絡協議会会長
3	太 田 一 江	角田市横倉小学校校長
4	亀 井 芳 光	栗原市教育委員会教育長
5	佐々木 俊一	大崎市中央公民館館長
6	佐々木とし子	宮城県地域活動（母親クラブ）連絡協議会会長
7	蘇 武 徳 行	宮城県岩出山高等学校校長
8	中 山 聖 子	(NPO法人ハーベスト代表理事) 公募委員
9	梨 本 雄 太 郎	宮城教育大学教授
10	奈 須 野 毅	宮城県PTA連合会会長
11	星 美 保	気仙沼市家庭教育推進協議会会長
12	水 谷 修	東北学院大学教授
13	森 雅 一 郎	東北放送アナウンス学院長
任 期	平成22年3月1日から平成24年2月29日まで ※名簿は五十音順	

No.	事業名	趣 旨	対 象	期 日	会 場	参加者数 (人)
1	生涯学習・社会教育主管課長等会議	本県生涯学習施策と主要推進事項等の共通理解を深めるとともに、その推進方策や市町村における生涯学習事業の推進について協議する。	県社会教育主事・市町村社会教育主管課長	10月28日 ※4月15日に予定された会議は震災のため中止	県行政庁舎	90
2	社会教育・協働教育研修会	社会教育関係職員としての心構えや役割等を、生涯学習・社会教育の現代的課題についての講話や実践事例の紹介等の話を聞くことによって深め、地域の教育力活性化のための機会とする。そして、情報交換等を行うことでこれまでの実践について振り返ったり、今後の実践に向けて目的や課題を把握したりすることで、社会教育関係職員としての資質向上を図る。	社会教育行政職員・公民館職員、教職員、学校支援に関わるコーディネーター、学校支援ボランティア等	8月10日 9月30日	県図書館 県行政庁舎	75 97
3	県社会教育委員研修会	県内市町村等の社会教育委員及び社会教育行政の担当者が、生涯学習社会の構築に向けた社会教育の推進方策について研修する。	県・市町村社会教育委員、社会教育関係職員等	11月11日	せんだいメディアテーク	223
4	社会教育関係職員・公民館職員研修会	社会教育関係職員、公民館職員としての心構えや役割等を、生涯学習・社会教育の現代的課題についての講話や実践事例の紹介等の話を聞くことによって深め、地域の教育力活性化のための機会とする。また、現代的課題について考えることを通じて、各市町村等における今後の社会教育行政、公民館運営等に生かす機会とし、社会教育関係職員としての資質向上を図る。	市町村教育委員会職員、公民館職員、社会教育主事、社会教育施設職員等	10月20日	県図書館	83
5	社会教育主事講習事前研修会 (①・②)	社会教育についての認識を深めるとともに、社会教育主事の役割及び受講の心構えについて研修する。	東北大学社会教育主事講習受講者	①7月21日 ②7月22日	本町分庁舎	36 36

●国立教育政策研究所主催社会教育研修事業

1	社会教育主事講習 (A)	7月20日 (水) ~ 8月24日 (水)	36日間	5人	仙台市5
2	社会教育主事講習 (B)	1月19日 (木) ~ 2月24日 (金)	37日間	1人	仙台市1
3	メディア教育指導者講座	10月3日 (月) ~ 10月7日 (金)	5日間	1人	登米市1
4	公民館職員専門講座	6月27日 (月) ~ 6月30日 (木)	4日間	0人	

●東北大学社会教育主事講習 (8月1日(月)~8月23日(火))
受講者数36人 (県29人・市町村7人)

4 社会教育団体に対する支援

全県の組織もつ団体が申請する事業に対しての補助金の交付と県と共催による研修事業の共催助成事業と、団体相互の交流と情報交換の機会として社会教育団体連絡会議を2回開催予定であったが、東日本大震災のためほとんどの事業が中止となった。

第5-6表

	支援対象団体名	代表者名
1	宮城県地域婦人団体連絡協議会	三浦 絢子
2	宮城県青年団連絡協議会	佐久間祥平
3	宮城県PTA連合会	奈須野 毅
4	宮城県高等学校PTA連合会	伊藤 均
5	日本ボーイスカウト宮城県連盟	村井 嘉浩
6	(社)ガールスカウト日本連盟宮城県支部	笠間 恵子
7	(社)宮城県子ども会育成連合会	菅原 芳郎
8	宮城県公民館連絡協議会	山口 宏
9	宮城県社会教育委員連絡協議会	菅原 敏元
10	宮城県ユネスコ連絡協議会	藤原 五郎
11	(社)宮城県芸術協会	小山喜三郎
共催助成事業として 社会教育委員連絡協議会研修会事業 (共催負担金30千円) のみ実施 ※東日本大震災のため、事業費の補助と社会教育団体連絡会議、公民館職員研修会事業 (共催負担金) を中止		

5 社会教育施設の状況

生涯学習の拠点として期待される社会教育施設については、積極的に整備充実を図ってきたところであるが、市町村合併等による再編により施設の適正配置、専門職員体制の整備、事業内容の充実、関連施設とのネットワーク化等を図り、県民の多様な学習要求に対応できる施設整備が求められている。

東日本大震災により県内のほぼ全域にわたり573施設が被災したため、公立社会教育施設災害復旧事業より被災施設の復旧を図った。

(1) 公民館等

ア 設置状況

公民館は、平成23年度現在247館設置されている。市町村合併の進展や学習ニーズの多様化、高度化に伴い、地域の実情に応じて、関連施設の整備状況などを考慮し、適正な配置と整備充実が進められてきた。(第5-6, 7, 8表参照)

イ 職員体制と研修活動

(ア) 職員は専任の割合が37.2%で1館当たり1.7人である。
(イ) 研修活動としては、震災の影響により社会教育・協働教育研修会を2回と社会教育関係職員・公民館職員研修会を1回に縮減して開催した。

第5-7表 公民館設置状況 (平成23年5月1日現在)

区 分	対象人口 (人) (H22国勢調査速報)	現 況		1市町村当たり 館数 (館)	1館当たり人口 (人)
		市町村数	総 数		
大河原	183,679	9	41	4.6	4,480
仙 台	444,112	13	39	3.0	11,387
大 崎	210,789	5	43	8.6	4,902
栗 原	74,932	1	20	20.0	3,747
登 米	83,969	1	17	17.0	4,939
東 部	213,780	3	12	4.0	17,815
南三陸	90,918	2	16	5.3	5,682
仙台市	1,045,986	1	59	59.0	17,729
計	2,348,165	35	247	7.1	9,507

第5-8表 過去10年間における公民館整備状況

区 分	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	この10年 間の平均	この5年 間の平均
新築数 (館)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.0

表5-9表 公民館職員配置状況

(平23.5.1現在)

区 分	館長 (人)	主事等 (人)	計 (人)	割合 (%)
専 任	16	392	408	37.2
兼 任	58	246	304	27.7
嘱 託	128	257	385	35.1
計	202	895	1,097	100.0

(2) 図書館

第5-10表

図書館設置状況

	設置年	床面積 (㎡)	蔵書点数 (22年度:点)	個人貸出点数 (22年度:点)	専任職員数 (22年度:人)	うち有資格者数 (22年度:人)	図書購入費 (22年度決算 額:千円)
	設置年	床面積 (㎡)	蔵書点数 (23年度:点)	個人貸出点数 (23年度:点)	専任職員数 (23年度:人)	うち有資格者数 (23年度:人)	図書購入費 (23年度決算 額:千円)
宮城県図書館	明治14年	18,100	1,028,374	700,936	41	17	35,616
仙台市民図書館	昭和37年	3,750	516,157	819,863	26	10	55,661
仙台市広瀬図書館	平成3年	600	98,623	384,859	1	1	8,261
仙台市宮城野図書館	平成2年	3,247	212,008	357,193	10	2	14,980
仙台市榴岡図書館	昭和58年	607	64,215	165,731	1	-	7,430
仙台市若林図書館	平成5年	1,911	220,853	518,228	11	2	16,640
仙台市太白図書館	平成11年	2,454	194,757	603,240	10	4	15,641
仙台市泉図書館	昭和53年	6,979	488,390	409,754	18	6	25,408
石巻市図書館	明治14年	1,463	236,384	159,638	11	5	12,371
塩竈市民図書館	昭和51年	2,543	222,971	237,016	9	2	12,053
気仙沼図書館	大正5年	1,944	221,129	101,147	4	1	7,326
本吉図書館	昭和26年	476	73,161	33,392	5	3	1,658
白石市図書館	大正3年	1,439	125,927	95,186	6	2	6,526
名取市図書館	昭和51年	862	154,703	89,179	7	4	9,591
角田市図書館	昭和46年	885	126,989	133,618	6	2	7,974
多賀城市立図書館	昭和53年	1,541	202,437	231,563	9	3	8,628
岩沼市図書館	昭和50年	976	138,943	332,247	5	4	21,927
登米市立迫図書館	昭和37年	531	40,699	31,656	2	1	6,673
登米市立登米図書館	昭和29年	124	32,236	8,493	-	-	2,168
栗原市立図書館	平成10年	1,809	108,477	112,351	6	2	18,609
東松島市図書館	平成5年	999	154,058	165,244	3	2	9,860
大崎市図書館	昭和36年	1,519	150,222	259,609	8	3	11,850
蔵王町立図書館	平成16年	593	51,181	76,146	1	1	0
柴田町図書館	平成22年	236	35,927	89,220	3	1	13,250
丸森町立金山図書館	昭和11年	121	24,126	1,835	-	-	212
亘理町立図書館	平成6年	1,963	148,603	124,593	4	2	9,446
利府町図書館	平成16年	203	44,057	150,382	6	3	4,090
加美町中新田図書館	平成6年	2,878	249,945	91,436	4	1	8,133
加美町小野田図書館	平成16年	903	72,278	77,287	2	1	4,284
美里町小牛田図書館	平成2年	923	113,087	114,835	3	1	8,440
美里町南郷図書館	平成18年	261	29,136	26,205	1	-	-
南三陸町図書館	昭和62年	-	9,740	2,897	1	1	1,606
合計	-	-	5,589,793	6,704,979	224	87	366,312

(3) 博物館

登録施設・相当施設合わせて18館あるが、民族資料館など各地域の特色を生かした類似施設が年々整備されてきている。
 (第5-10表参照)
 県美術館は「開かれた」総合美術センターとして広く県民生

活に密着し、親しまれる事業を企画・実施してきた。
 今後ますます県民の豊かな文化環境を求める気運が高まる中で、それぞれの博物館、類似施設などの特色を十分生かした連携が強く望まれる。

第5-11表

博物館設置状況

施設名	設置者	登録年月日	所在地	
登録博物館	東北歴史博物館	宮城県	平成12年1月26日	多賀城市高崎1-22-1
	宮城県美術館	宮城県	昭和57年9月4日	仙台市青葉区川内元支倉34-1
	瑞巖寺宝物館	宗教法人瑞巖寺	昭和27年8月13日	松島町松島字町内91
	仙台市博物館	仙台市	昭和36年10月2日	仙台市青葉区川内三の丸跡
	鹽竈神社博物館	宗教法人志波彦塩竈神社	昭和41年5月6日	塩竈市一森山1-1
	仙台市科学館	仙台市	平成2年9月26日	仙台市青葉区台原森林公園4-1
	カメイ美術館	財団法人カメイ社会教育振興財団	平成7年11月10日	仙台市青葉区五橋1-1-3
	歴史博物館青葉城資料展示館	宗教法人宮城県護国神社	平成18年10月20日	仙台市青葉区川内1番地
	仙台市天文台	仙台市	平成20年6月5日	仙台市青葉区錦ヶ丘9-29-32
相当施設	マリニピア松島水族館	仙台急行株式会社	昭和30年12月28日	松島町浪打浜16
	仙台市八木山動物公園	仙台市	昭和41年5月25日	仙台市太白区八木山本町1-43
	社会福祉法人共生福祉会福島美術館	社会福祉法人共生福祉会	昭和55年8月4日	仙台市若林区土樋288-2
	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館	学校法人梅壇学園	平成元年5月31日	仙台市青葉区国見一丁目8-1
	大崎市松山ふるさと歴史館	大崎市	平成4年3月1日	大崎市松山千石字松山428
	芹沢長介記念東北陶磁文化館	加美町	平成6年7月28日	加美町字町裏64
	リアス・アーク美術館	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合	平成12年7月18日	気仙沼市宇赤岩牧沢138-5
	宮城県慶長使節船ミュージアム	宮城県	平成21年2月25日	石巻市渡波字大森30-2
	東北学院大学博物館	学校法人東北学院	平成22年3月17日	仙台市青葉区土樋一丁目3-1

(4) 青少年教育施設

自然の家3施設(県立)、青少年自然の家1施設(国立)、少年自然の家1施設(仙台市立)、国立野営場1施設、青年会館1館があり、それぞれの施設の特色を生かした事業が実施されている。

(5) 宮城県婦人会館

一日(日帰り)研修、家庭における男女共同参画講座などの事業を、指定管理者である(財)みやぎ婦人会館が実施した。

●公立社会教育施設災害復旧事業

東日本大震災が激甚災害に指定され、本県全域が特定地方公共団体に指定されたことから、被災した公立社会教育施設に係る災害復旧費の補助金の交付に係る業務を推進した。

[平成23年度実績]

被災数 573施設 補助金申請予定数 217施設
 補助金交付内定数 132施設 交付決定数 60施設
 事業完了数 42施設 平成24年度へ繰越 175施設

6 子ども読書活動推進事業

県内における子どもの読書活動の推進に関する方策と具体的な取組を内容として、平成21年4月に策定された「第二次みやぎ子ども読書活動推進計画」を踏まえ、各市町村の子ども読書活動推進計画の実施を支援するため、活動の担い手を育成する講習会を開催した。

(1) 読み聞かせボランティア養成講座

- ・川崎町
 期日：平成23年6月6日～7月19日
 会場：川崎町公民館他
 修了者：27人
- ・加美町
 期日：平成23年6月24日～7月15日
 会場：加美町小野田図書館他
 修了者：30人

- ・利府町
 期日：平成23年9月20日～12月20日
 会場：利府町図書館他
 修了者：31人
 ※東松島市での開催を予定したが、東日本大震災により中止。
- (2) ブックトーク講座**
 ※開催を予定したが、東日本大震災により中止。

第3節 青少年教育

青少年を取り巻く社会環境の変化が青少年にさまざまな影響を与えている中、次代を担う青少年が社会の変化に主体的に対応できる資質と意欲を持ち、たくましく思いやりのある人間として育つための青少年育成体制と事業の充実、環境づくりの総合的な推進に努める。

(1) 青少年育成指導者研修の実施

No	事業名	内 容	対 象	期 日	会 場
1	MAP（みやぎアドベンチャープログラム）研修会	<p>学校外活動の充実と地域におけるMAPの普及・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MAP体験会 MAPの基本的な考え方を学ぶとともに、簡単なMAPのアクティビティを体験する。 ・MAP講習Ⅰ MAPの理論やプログラミングを学ぶとともに、様々なMAPのアクティビティやローエレメントを研修する。 ・MAP講習Ⅱ MAPのプログラミングの組立と、アドベンチャーカウンセリング等心理的手法を学ぶ。 	<p>市町村教育委員会・公民館・青少年行政担当者・施設職員・少年教育指導者等各 25人</p> <p>MAP体験会修了者 25人</p> <p>MAP講習Ⅰ修了者 25人</p>	<p>震災のため中止</p> <p>震災のため中止</p> <p>震災のため中止</p>	
2	ジュニア・リーダー中級研修会	ジュニア・リーダーとして必要な知識・技能・態度を身につけさせ、実践力を高めさせる研修会を開催。	<p>ジュニア・リーダー初級研修を修了し、10時間以上の活動実績のある中学2年生から高校生等（市町村教育委員会の推薦者）</p> <p>大河原 35人 仙台 27人 北部・栗原 20人 東部・登米 21人 南三陸 18人</p>	7月・8月	<p>教育事務所ごと5会場で実施（南三陸・登米、北部・栗原合同開催）</p> <p>蔵王自然の家 婦人会館研修室 国立花山青少年自然の家 国立花山青少年自然の家 国立花山青少年自然の家</p>
3	ジュニア・リーダー上級研修会	ジュニア・リーダーによる発展的活動について深く理解し、自主的な活動意欲を高めさせる研修会を開催。	<p>ジュニア・リーダー中級研修を修了し、10時間以上の活動実績のある中学2年生から高校生等（市町村教育委員会の推薦者）</p> <p>大河原 4人 仙台 9人 北部 11人 栗原 7人 登米 4人 東部 7人 南三陸 10人</p>	12月25日（日）～27日（火）	<p>蔵王自然の家（大河原、仙台管内） 志津川自然の家（北部、栗原、登米、東部、南三陸管内）</p>

(2) 青少年の体験活動・ボランティア活動支援

No	事業名	内容	対象	期日	会場
1	青少年長期自然体験活動推進事業	夏季休業中等に、親と離れて1週間程度の自然体験、長期宿泊体験活動等を通して自主性・社会性の育成を図る。	42人	7月27日～8月2日	蔵王自然の家
			36人	8月1日～7日	松島自然の家
			30人	8月6日～12日	志津川自然の家
2	セカンドスクールの活用事業	児童生徒に豊かな体験の場を提供するために、学校と青少年教育施設との連携・融合を図り、宿泊体験活動についての支援・協力を推進する。	児童生徒 357人	通年 9月12日～ 9月16日	蔵王自然の家
3	青少年教育施設ボランティア活動推進事業	青少年教育施設におけるボランティアの活用を図るとともに養成研修を実施する。	青年成人 69人 148人 5人	通年	蔵王自然の家 松島自然の家 志津川自然の家

(3) 青年の地域活動支援（青年文化祭、青年体育大会の実施）

No	事業名	内容	対象	期日	会場
1	青年地域活動促進事業	青年の文化活動及びスポーツ活動を軸とした地域活動を推進し、真に豊かな地域社会の創造を目指す。 (1) 地方青年文化祭 (2) 宮城県青年文化祭 (3) 宮城県青年体育大会 (4) 全国青年大会	各市町村青年	11月～3月	各教育事務所管内7会場 東京都（日本青年館他）
			県内青年 県内青年 県青年代表	震災のため中止 震災のため中止 11月11日～14日	
2	青年会館研修奨励事業	地域づくりに寄与できる青年の育成と青年団体指導者の資質向上を図る諸事業を実施する。 (1) 青年地域交流事業	各種青年	通年（年4回）	(財)宮城県青年会館

(4) 青年団体への協力・援助

県内地域で活動している青年団体間の連携の必要性が叫ばれ、連絡協議会を結成し8団体が加盟している。

ア 地域青年団

地域青年団は、宮城県青年団連絡協議会をもって代表される。平成23年度登録団員数は、550人となっている。地方青年文化祭、県青年文化祭、県青年体育大会、全国青年大会を中心に協力・援助を行っている。

イ その他の青年団体

地域青年団体以外の青年団体は、次に掲げるとおりである。

- 宮城県農村青少年クラブ連絡協議会
- 宮城県農協青年連盟
- 宮城県商工会青年部連合会
- 宮城県林業研究会連絡協議会
- 宮城県友愛青年同志会
- 宮城県森林組合青年部連絡協議会
- 宮城県漁協青年団体連絡協議会
- 宮城県青年国際交流機構
- 宮城県青年の船友の会
- 宮城県青年海外協力協会
- 宮城県ユースホステル協会
- 伊達な翼の会

第4節 成人教育

1 女性教育

(1) 指導の要点

女性のライフスタイルの変化に伴う学習要求の多様化に対応した女性教育の学習機会の充実と、婦人学級・女性団体の自主的活動の促進を図った。

(2) 市町村における女性教育に関する学級実施状況（除；仙台市）

○学級事業数 282 参加者数 13,137人

※22,23年度実績未定のため21年度実績のまま

(3) 市町村における女性ボランティア養成講座（除；仙台市）

○講座数 13 参加者数 759人

※22,23年度実績未定のため21年度実績のまま

(4) 地域婦人団体の現状

県内では119単位団体、9,922人の会員を有する宮城県地域婦人団体連絡協議会は、青少年の健全育成、男女共同参画社会の実現、環境保全と資源の有効利用、高齢化社会への対応、世界平和の確立等の実現に努めることを目的とする全国組織を持つ団体である。

宮婦連の自主性を尊重しつつ、求めに応じて指導、助言、援助を行った。

2 家庭教育

(1) 指導の要点

心豊かなたくましい青少年の育成を目指し、家庭・学校・地域が持つ独自の教育機能の強化に努め相互の連携を図ることを目標とした。

ア 基本的な生活の場である家庭の在り方や、乳幼児期における家庭教育に関する学習の充実に努める。

イ 家庭教育に関する親の学習機会・内容の充実や情報提供などを推進するとともに指導者の確保を図る。

ウ 子供を取り巻くあらゆる人々を対象とし、特に男女が共に参加できる学習の場の提供と、保健衛生・福祉等関係機関との連携に努める。

(2) 事業

○ 家庭教育支援推進事業

① 趣旨

家庭教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う上で極めて重要であり、学校教育・社会教育につながる生涯教育の起点でもある。しかし、近年家庭環境は急激に変化し、孤立感・不安感から子育てを負担に感じる人々が増加しつつある。このため、地域全体で親の「学び」と「育ち」を支える環境づくりが重要であることから、家庭教育上の諸問題について必要な情報や学習の機会の提供、保護者から身近な地域での家庭教育に関する相談対応、支持者の育成及び家庭教育支援チームの普及・定着を図ることにより、家庭教育の充実と振興を図る。

② 実施期間 4月1日～3月31日

③ 事業の対象

親、家族、保育従事者、青少年育成会担当者、社会教育主事、小中学校教諭等、家庭教育に関心をもつ者。これから親になる青年男女。

④ 事業内容

ア 家庭教育の情報提供

・家庭教育手帳データ（文部科学省HP）の活用促進
・生涯学習課HPの活用

イ 子どもの生活習慣確立の推進

・「はやね・はやおき・あさごはん」の推奨

ウ 市町村等での家庭教育関連講座実施への講師紹介

○ 協働教育推進総合事業（家庭教育支援分）

① 趣旨 同上

② 実施期間 4月1日～3月31日

③ 事業の対象

親、家族、保育従事者、青少年健全育成関係者、社会教育関係者、学校教育関係者、家庭教育の関心をもつ者、こ

れから親になる青年男女等。

④ 事業内容

ア 子育てサポーター養成講座

期 日 平成23年6月16日～10月4日まで各2日間
8時間程度の研修

会 場 大河原管内 大河原合同庁舎
仙台管内 仙台合同庁舎
北部管内 大崎合同庁舎、栗原文化会館
東部管内 登米合同庁舎
南三陸管内 登米合同庁舎

内 容 地域の子育て支援者の養成

受講者 179人

イ 子育てサポーターリーダー養成講座

期 日 平成23年9月27日、10月27日、11月18日、12月2日
4日間14時間程度の研修

会 場 行政庁舎

内 容 地域の子育て支援者リーダーの養成

受講者 18人

ウ 子育てサポーター・サポーターリーダーフォローアップ講座

期 日 平成23年10月5日～12月5日まで
半日または1日間2時間から4時間程度の研修

会 場 大河原管内 大河原合同庁舎
仙台管内 仙台合同庁舎
北部管内 大崎合同庁舎
東部管内 登米合同庁舎
南三陸管内 登米合同庁舎

内 容 地域の子育て支援者の資質の向上とネットワークの構築

受講者 108人

エ 子育てサポーターリーダー連絡会

期 日 平成23年7月11日、12月4日まで
2日間8時間程度の研修

会 場 行政庁舎

内 容 子育てサポーターリーダーのネットワークづくりと情報交換

受講者 76人

オ 市町村における家庭教育に関する事業・学級
239回（参加人数8,116名）

3 P T A

(1) 平成23年度宮城県P T A指導者中央研修会

ア 研究テーマ

「今、大人ができること」

～苦難とともに生きて行けるこどもたちの育成にむけて～

イ 期日・会場

7月～12月

宮城県P T A指導者中央研修会（富谷町）

宮城県P T A指導者地区研修会

高校6会場、特別支援教育1会場

(2) 宮城県P T A連合会の主な事業

ア 代議員会（仙台市）

イ 地区セミナー（22会場）

ウ 単位P T A会長会（松島町）

エ 機関紙「P T Aみやぎ」の発行

(3) 宮城県高等学校P T A連合会の主な事業

ア 総会（仙台市）

イ 「高P連会報」発行

ウ 高校P T Aフェスティバル2011（仙台市）

(4) 優良P T Aの表彰

文部科学大臣表彰（4団体）

・蔵王町立永野小学校父母教師会

・仙台市立袋原中学校PTA

- ・仙台市立西中田小学校父母教師会
- ・宮城県登米高等学校PTA

内 容 講演会「震災後の人権問題」
参加者 85人

4 人権教育

- ・平成23年度人権教育指導者事業

学校・家庭での日常生活において、身近な出来事の人権に関わる
ことであることに気づくとともに、基本的人権はいかに理解される
べきであるかを考え、人権理解の涵養をはかることを目的に開催。

- ア 人権教育指導者研修会（社会教育行政職員）

期 日 10月20日（木）

会 場 県図書館ホール養賢堂

- イ 人権学習会

期 日 11月19日（土）

会 場 栗原市若柳総合文化センター

内 容 講演会「家族をめぐる人権問題」

参加者 153人

第5節 視聴覚教育

学校・社会教育におけるメディアの積極的な活用を促進するとともに情報化社会に対応する教育内容・方法の充実と開発、人材の育成を図るため、視聴覚教育推進拠点及び推進体制の整備充実と研修の拡充を目標として掲げ、その具体化と実践化に努めた。

1 視聴覚教材センター（ライブラリー）の設置状況

(1) 県視聴覚ライブラリー

県の視聴覚ライブラリーは、県図書館内に併置され、地域視
聴覚教材センター（ライブラリー）間の連絡調整・指導助言と一
般県民に対する視聴覚教材等の提供などに努めた。

(2) 市町村の視聴覚教材センター（ライブラリー）

地域視聴覚教材センターは、完全公立化（一部事務組合4・単
独5）され、視聴覚教育推進拠点となっている。

人的体制・予算措置などに格差がみられ、事業の展開にも影
響がでているので、各センター間の連携を強め相互援助を図る
中で視聴覚教育の普遍化を目指し、地域の総合的な学習情報機
能をもつよう努めた。

第6節 宮城県図書館

1 宮城県図書館振興基本計画

○ 理念

情報の拠点としての県図書館の機能を強化し、地域文化を保護・育成・活用する「22世紀を牽引する叡智の杜づくり」を進め、県民の皆様のより充実した生涯学習を支援します。

なお、この計画は2008年から2012年の5ヵ年で進めるものです。

○ 基本方針

- (1) 生涯学習に役立つ図書館
- (2) 情報の拠点としての図書館
- (3) 次世代を育成する図書館

○ 施策と事業計画

- (1) 生涯学習に役立つ図書館
 - ① 資料の収集・整備
 - a 生涯学習に役立つ資料の収集と整備
 - ② 生涯学習情報の提供
 - a 学習機会の提供
 - ③ 利用しやすい図書館への工夫
 - a 情報発信の促進
 - b 館内表示の工夫
- (2) 情報の拠点としての図書館
 - ① 県内市町村図書館等への支援・連携・協働
 - a 図書館資料の協力貸出の推進
 - b 図書館間の相互協力体制の充実
 - c 図書館の整備・運営に関する助言
 - ② いつでもどこでもサービスを受けられる体制の充実
 - a 図書館情報ネットワークシステムの整備
 - b 障がい者サービスの充実
 - ③ 調査・研究に役立つ機能の充実
 - a 調査・研究に役立つ資料の収集
 - b レファレンス事例の作成・公開
- (3) 次世代を育成する図書館
 - ① 郷土関係資料の維持・充実
 - a 宮城に関する資料の収集と整備
 - b 宮城県の行政資料の収集と行政課題に関する情報提供
 - ② 子どもの読書環境の充実
 - a 読書環境の整備充実
 - b 読書活動の理解の促進
 - ③ 「宮城県図書館次世代育成プロジェクト」の推進
 - a 図書館の知的財産の活用
 - b 図書館の人的資源の活用

2 事業予算

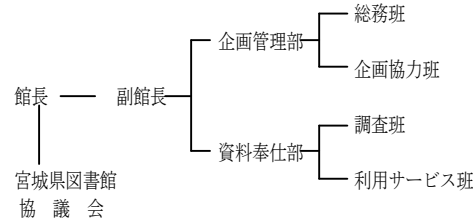
(単位：千円)

区分	当初予算額	概要
管理経費	213,764	本館の運営維持費 (定員内職員の人件費を除く)
図書館協議会	325	図書館協議会運営費
図書館運営費	3,464	機器使用料, 消耗品等に要する経費
市町村支援費	51,980	市町村図書館・公民館図書室の支援に要する経費
企画広報費	877	広報等に要する経費
資料購入費	42,978	資料購入費
貴重資料保存修復事業費	0	本館所蔵貴重資料の保存及び修復に要する経費
合計	313,388	

3 職員組織及び事務分掌

(1) 組織

(平成23年4月1日)



(2) 職員数

() : 司書・司書補有資格者内数

職名	館長	副館長	部長	次長	主任幹事	主任査査	主任事	計	嘱託	臨時職員	計	
人数	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (1)	2 (1)	3 (1)	8 (2)	18 (10)	39 (15)	18 (18)	23 (7)	41 (25)

4 宮城県図書館協議会

(1) 第30次宮城県図書館協議会委員名簿

任期：平成22年3月1日～平成24年2月29日

(平成23年4月1日現在)

区分	氏名	役職名	備考
会長			欠員
副会長	鵜飼 信好	宮城県漁業信用基金協会 理事長	
委員	小川きょう子	小川ピアノ教室 主宰	
委員	奥山 恒義	宮城県石巻西高等学校 校長	
委員	齋藤 俊子	仙台市立太白小学校 校長	
委員	千葉 和江	前石巻市図書館 館長	
委員	横田 隆雄	前大和町公民館 館長	
委員	渡辺 政昭	株式会社新報社 編集局生活文化部長	

(2) 宮城県図書館協議会開催状況

第1回 平成23年7月20日(水)

- ① 報告事項 東日本大震災に伴う被災・復旧状況等について

平成22年度事業実施状況について

平成23年度事業計画について

- ② その他 文化財資料等の移管について
公文書館の移転について

第2回 平成23年11月17日(木)

- ① 報告事項 文化財資料等の移管について
貴重資料庫の問題点について
震災文庫開設及び県内市町村図書館等への支援状況について

第3回 平成24年2月23日(木)

- ① 報告事項 平成23年度事業実施状況について
地震災害復旧工事実施予定について
宮城県図書館協議会設置条例の改正について
次期図書館振興基本計画について

5 実施事業の概要

(1) 館内利用状況(平成23年4月～平成24年3月31日)

① 開館日数	267日	
② 入館者数	394,308人	1日平均1,477人
③ 個人貸出点数	700,936点	1日平均2,625点
④ 調査相談件数	32,159件	1日平均120件

統計データを前年同期間と対比すると、1日平均入館者数・貸出点数とも91%で推移し、調査相談件数では73%と前年度を下回っています。

(2) 主な事業の実施状況(宮城県図書館振興基本計画の施策の展開としての重点項目)

① 生涯学習に役立つ図書館

- ア 資料の収集・整備(平成24年3月31日現在)

資料費	会計区分	一般予算	光り交付金
	購入資料点数	12,684点	5,017点

イ 利用しやすい図書館への工夫(平成22年3月から登録開始)
Web予約の受付(平成23年4月～24年3月31日)

開館日数	267日
予約登録数	984件
1日当平均数	3.7件

② 情報の拠点としての図書館

ア 県内公共図書館等への支援・連携・協働協力貸出の推進
協力貸出点数(平成23年5月13日～平成24年3月31日)

公共図書館	11,532点
公民館等図書室	2,492点
計	14,024点

前年の月平均貸出点数は1,956点に対し、今年度の月平均貸出点数は1.275点となり、前年度同期と比較して65%の利用率になっています。

イ いつでもどこでもサービスを受けられる体制の充実
宮城県図書館情報ネットワークシステム(MY-NET)加入状況

- 公共図書館
13市8町の31館全てが加入しています。
- 公民館等図書室
平成23年度には色麻町公民館が新規加入し、11町12室が加入しており、未加入は、下記の4室となっております。

七ヶ宿町公民館	大郷町中央公民館
大衡村公民館	涌谷町涌谷公民館

ウ 調査研究に役立つ機能の充実

レファレンス事例の作成・公開

a レファレンス事例の公開

本館で調査回答した相談事例の中から参考事例を抽出、随時追加更新しながらホームページで公開しています。

区 分	平成22年度	平成23年度
各年度・新規公開事例数	44件	40件
公開事例総数	90件	130件

※東日本大震災の復旧作業等により平成23年3月から5月まで事例公開は中断

b レファレンス協同データベースへの登録推進

国立国会図書館が行っているレファレンス協同データベースへの登録を積極的に推進しています。

区 分	平成22年度	平成23年度
各年度・新規公開事例数	207件	69件
公開事例総数	425件	496件

参加館数 560館(公共347館、大学150館、専門国立国会図書館63館)

※東日本大震災の復旧作業等により平成23年3月から5月まで事例公開は中断

③ 次世代を育成する図書館

ア 子どもの読書環境の充実

a 子どもの本展示会の開催

平成22年に刊行された児童書、絵本等約1,500冊を当館ホール養賢堂で展示しました。

期 間	平成23年6月10日(金)～ 平成23年6月23日(木)
入場者数	838人

b 子どもの本移動展示会

子どもの本展示会で展示した図書等を、市町村図書館や小学校等に貸出しています。

期 間	平成23年9月5日(月)～ 平成24年2月24日(金)		
実施場所	公共図書館等	11会場	入場3,271人
	県内小学校	38会場	入場7,601人

イ 「宮城県図書館次世代育成プロジェクト」の推進

a 特別展等の開催

当館展示室で、次の特別展を開催しました。

宮城に眠る玉手箱 ～のぞいてみよう児童資料の世界～	平成23年1月15日(土) ～平成23年7月31日(日)
宮城の魅力再発見	平成23年8月6日(土) ～平成23年8月31日(水)
三重の魅力	平成23年9月6日(火) ～平成23年9月30日(金)
「ことばのうみ」に集う ～宮城県図書館だよりとみやぎゆかりの作家たち～	平成23年10月6日(木) ～平成23年10月27日(木)
宮城県図書館130年のあゆみ ～青柳文庫とその志を引き継いで～	平成23年11月3日(木) ～平成24年1月25日(水)
絆の証し ～東日本大震災文庫展～	平成24年2月11日(土) ～平成24年5月31日(木)

b 貴重資料の保存修復

平成23年度宮城県図書館所蔵和古書複製製作事業を実施し、「青柳文庫」についてマイクロフィルム撮影を行い、複製本166タイトル(800冊)を作製し、平成23年度末の本館所蔵和古書複製本の総数は2,439タイトル(7,352冊)となりました。

なお、本事業は緊急雇用創出事業として実施しました。

c 館長講座の開催

「古代の城柵と北斗七星の祭祀」と題し、ヤマト朝廷が多賀城と六つの城で行っていたと推察される北斗七星の祭祀の謎を独自の視点で考察し、100人が受講しました。

「古代の城柵と北斗七星の祭祀」	平成23年12月3日(土)
-----------------	---------------

d みやぎ県民大学の開催

11月中の土曜日4回にわたり当館職員が講師となって開催し、延べ85人が受講しました。

第1回	書の私的鑑賞Ⅱ	平成23年11月5日
第2回	文庫本のはなし	平成23年11月12日
第3回	伝えること・伝わることー音訳サービスの基礎の基礎ー	平成23年11月19日
第4回	太陽と月の形 一月の形が変わる原因を考えようー	平成23年11月26日

(3) その他

① 特別整理期間(休館)の実施

蔵書点検については、当館直接利用者へのサービス向上に資するため、開架書庫を中心とした蔵書の確認、点検・整理を実施しました。

実施期間	平成24年1月26日(木) ～平成24年2月1日(水)	7日間 実作業日数6日間
------	--------------------------------	-----------------

② 「サービス向上・マナーアップ推進キャンペーン」の実施

昨年度に引き続き、職員による利用者サービス向上と利用者のマナーアップの推進を図るため、10月中の1か月を期間としてキャンペーンに取り組みました。

職員向け	① 職場目標の掲示
	② サービス一斉点検の実施
利用者向け	① マナーアップポスターの掲示
	② しおり配布
	③ 職員等による巡回及び館内放送の実施
	④ 棄損・汚損本等の展示

※市町村図書館等 11 館の協力を得て、合同でマナーアップキャンペーンの開催ができた。

③ 子どもの読書活動を推進するための図書セットの貸出

子どもの読書活動を推進するため、重要な役割を担う学校等に対し、支援の一環として図書セットを組み、試行的に貸出を行いました。

ア セット内容：子ども図書室の複本を使用し、約 40 冊を 1 セットとして 34 セットを組む。

イ 対象施設：小・中・特別支援学校及びこれに準ずる施設(保育園・幼稚園)

ウ 貸出期間：1 ヶ月

エ 試行期間：平成 22 年度から平成 23 年度(2 年間)

※対象施設：宮城県全域(通知は各市町村教育長から管内各校へメールにて依頼)

※貸出実績：小学校 10 校(富谷町 6・丸森町 1・柴田町 1・白石市 1・大和町 1)

④ 震災の影響と対応

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災の本震時の利用者は 350 人で、職員や業務委託関係者と合わせて 450 人が在館しており、幸い一人の負傷者を出すことなく避難することができました。

しかし、施設設備の一部が損壊、書架の転倒や図書資料の約 9 割が落下及び散乱や損傷も著しく、本震時翌日の 3 月 12 日から休館を余儀なくされました。

さらに、4 月 7 日の最大余震により、配架を終えていた約 5 割の図書資料が再度落下、復旧作業のやり直しが必要となり、開館を 5 月 13 日まで延期せざるを得ないことになりました。

ア 被災した市町村図書館・公民館図書室へ復旧・復興等支援協力の実施

(南三陸町図書館、名取市図書館、涌谷町涌谷公民館、女川町生涯教育センターなど)

イ 被災支援を行う NPO 等各団体との連携・支援協力の調整

ウ 東日本大震災に関する資料「震災文庫」の購入、収集・保存及び公開

エ 本館の災害復旧工事への対応

6 平成23年度図書館資料利用状況等（統計）

(1) 受入資料一覧表

表5-12表 図書・視聴覚資料

(現在高=平成24年3月末の蔵書数)

区分	購入	寄贈	その他	合計	除籍等	引増減	現在高
一般図書	6,533	1,291	124	7,948	1,380	6,568	673,878
洋書	8	6	17	31	5	26	17,073
ハンゲル資料				0	0	0	2,075
中国書				0	0	0	5,790
一般図書等 小計	6,541	1,297	141	7,979	1,385	6,594	698,816
貸出用児童書	2,122	113	15	2,250	163	2,087	68,000
保存用児童書	2,215	117	4,222	6,564	8	6,546	101,821
保存用紙芝居		9	0	9	0	9	2,404
貸出用紙芝居		9	0	9	0	9	935
街頭紙芝居				0			5,333
教育紙芝居				0			1,473
児童資料 小計	4,337	248	4,237	8,822	171	8,651	179,966
郷土資料	388	632	11	1,031	3	1,028	60,898
和古書				0			38,417
漢籍				0			18,886
地図資料	5	10		15	0	15	9,747
電子図書				0			922
マイクロフィルム	160			160	0	160	17,132
郷土資料等 小計	553	642	11	1,206	3	1,203	146,002
館外用図書				0			3,590
図書資料小計	11,431	2,187	4,389	18,007	1,559	16,448	1,028,374
16mmフィルム				0			1,683
録画テープ (Uマチック)				0			24
録画テープ (ベータ)				0			30
録画テープ (VHS)				0	26	-26	13,056
8mmフィルム				0			18
CD-ROM (主に映像)				0			341
レコード				0			1,320
コンパクトディスク	166	49		215	57	158	16,267
楽譜	25	37		62	14	48	8,906
レーザーディスク				0			950
DVDビデオ	237	28	34	299	4	295	3,302
カセットテープ				0		0	4,533
オープンリールテープ				0			773
スライドフィルム				0			1,174
ELIB				0		0	99
視聴覚資料小計	428	114	34	576	101	475	52,476
総計	11,859	2,301	4,423	18,583	1,660	16,923	1,080,850

第5-13表 逐次刊行物

区分	配架場所	所蔵タイトル数	うち年間受入タイトル数			
			うち購入	うち寄贈他	うち外国語	
雑誌 (紀要を含む)	新聞雑誌室	9,472種	1,620種	365種	1,255種	17種
	みやぎ資料室	2,710種	292種	7種	285種	
	子ども図書室	270種	35種	16種	19種	
	小計	12,452種	1,947種	388種	1,559種	17種
年鑑・年報	新聞雑誌室	3,346種	568種	212種	356種	
	子ども図書室	21種	3種	1種	2種	
	小計	3,367種	571種	213種	358種	
行政資料	新聞雑誌室	2,917種	442種	170種	272種	
	みやぎ資料室	2,027種	90種	0種	90種	
	小計	4,944種	532種	170種	362種	
新聞	新聞雑誌室	657種	80種	53種	27種	1種
	みやぎ資料室	201種	7種	0種	7種	
	子ども図書室	4種	1種	1種	0種	
	小計	862種	88種	54種	34種	1種
計		21,625種	3,138種	825種	2,313種	18種
前年度		21,522種	3,276種	879種	2,397種	18種

*子ども図書室には児童資料研究・相談室分を含む

(2) 開館日数・入館者数・個人貸出冊数・調査相談件数

第5-14表

区分	開館日数	入館者数	1日平均入館者数	個人貸出冊数	1日平均貸出冊数	調査相談件数
23年度	267日	394,308人	1,477人	700,936冊	2,625冊	32,159件
前年度計	284日	458,562人	1,621人	816,159冊	2,874冊	46,732件
増減	-17日	-64,254人	-144人	-115,223冊	-249冊	-14,573件

*東日本大震災により被災し、平成23年3月12日から5月12日まで休館。

(3) 利用登録者数

第5-15表

	23年3月末現在	24年3月末現在
利用登録者数	258,521人	264,736人
対前年比	+6,839人	+6,215人
新規登録者数	6,867人	6,332人

居住市町村別内訳

第5-16表 ○利用登録者数

	平成23年3月末現在		平成24年3月末現在	
	登録者数	構成比	登録者数	構成比
仙台市	196,724人	76.1%	201,305人	76.1%
(内訳) 青葉区	63,701人	24.6%	65,098人	24.6%
宮城野区	18,428人	7.1%	18,805人	7.1%
若林区	8,088人	3.1%	8,228人	3.1%
太白区	17,715人	6.9%	17,991人	6.8%
泉区	88,792人	34.3%	91,183人	34.5%
富谷町	17,934人	6.9%	18,121人	6.8%
大和町	6,196人	2.4%	6,413人	2.4%
大崎市	5,420人	2.1%	5,559人	2.1%
利府町	4,711人	1.8%	4,803人	1.8%
多賀城市	4,062人	1.6%	4,165人	1.6%
名取市	3,752人	1.5%	3,823人	1.4%
塩竈市	2,826人	1.1%	2,880人	1.1%
その他	16,896人	6.5%	17,667人	6.7%
合計	258,521人	100.0%	264,736人	100.0%

第5-17表 ○個人貸出冊数

	平成22年度		平成23年度	
	貸出冊数	構成比	貸出冊数	構成比
仙台市	640,543冊	78.5%	556,914冊	79.5%
(内訳) 青葉区	186,589冊	22.9%	155,664冊	22.2%
宮城野区	24,998冊	3.1%	21,325冊	3.0%
若林区	7,284冊	0.9%	5,499冊	0.8%
太白区	19,200冊	2.4%	13,949冊	2.0%
泉区	402,472冊	49.3%	360,477冊	51.5%
富谷町	95,384冊	11.7%	80,894冊	11.5%
大和町	27,382冊	3.3%	22,966冊	3.3%
大崎市	10,901冊	1.3%	8,831冊	1.3%
利府町	8,806冊	1.1%	6,580冊	0.9%
多賀城市	4,344冊	0.5%	3,682冊	0.5%
名取市	3,353冊	0.4%	2,744冊	0.4%
塩竈市	2,922冊	0.4%	2,363冊	0.3%
その他	22,524冊	2.8%	15,962冊	2.3%
合計	816,159冊	100.0%	700,936冊	100.0%

(4) 分類別蔵書冊数及び個人貸出冊数

第5-18表

(単位：冊，%)

	一般図書											外国語資料	郷土資料	児童資料	視聴覚資料	その他	計
	総記	哲学	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	未分類						
蔵書冊数	29,060	36,884	77,707	125,887	47,541	46,190	28,605	61,020	12,371	170,614	2,069	24,938	146,002	179,966	52,476	39,520	1,080,850
構成比*1	2.7	3.4	7.2	11.6	4.4	4.3	2.6	5.6	1.1	15.8	0.2	2.3	13.5	16.7	4.9	3.7	100.0
構成比*2	4.6	5.8	12.2	19.8	7.5	7.3	4.5	9.6	1.9	26.8							100.0
前年度計	28,511	36,532	76,708	124,386	46,878	45,383	28,174	60,161	12,236	168,944	2,275	22,389	144,799	171,315	52,001	43,235	1,063,927
増減	549	352	999	1,501	663	807	431	859	135	1,670	-206	2,549	1,203	8,651	475	-3,715	16,923
貸出冊数	4,879	18,405	30,773	40,071	25,428	34,963	13,389	36,062	6,135	145,724	55,220	923		186,105	102,859		700,936
構成比*1	0.7	2.6	4.4	5.7	3.6	5.0	1.9	5.1	0.9	20.8	7.9	0.1		26.6	14.7		100.0
構成比*2	1.4	5.2	8.6	11.3	7.1	9.8	3.8	10.1	1.7	41.0							100.0
前年度計	6,573	23,231	35,823	50,006	30,315	39,047	16,524	42,127	7,257	166,569	66,908	1,470		196,307	134,002		816,159
増減	-1,694	-4,826	-5,050	-9,935	-4,887	-4,084	-3,135	-6,065	-1,122	-20,845	-11,688	-547		-10,202	-31,143		-115,223

構成比*1：対総数での構を算出したもの

構成比*2：一般図書のうちNDC分類付与済みの資料内での構成比を算出したもの

(5) 古書閲覧及び特別利用

第5-19表

(単位: 件, 冊)

	閲覧 利用	特別利用									
		特別貸出	撮影	出版	掲載	翻刻	ビデオ	放送	装飾	計	
23年度計	利用件数	40	23	14	0	60	1	5	9	0	112
	利用冊数	330	72	74	0	119	1	11	13	0	290
前年度計	利用件数	100	37	13	6	54	1	0	6	0	117
	利用冊数	725	80	46	7	123	1	0	11	0	268

(6) 調査相談の利用

第5-20表

(単位: 件)

	電話	文書	E-mail	口頭	その他	計
23年度計	2,350	161	191	29,456	1	32,159
前年度計	3,914	139	200	42,479	0	46,732

(7) 文献複写の利用

○種類別枚数

第5-21表

(単位: 枚)

種別		枚数
電子 複写	白黒	111,443 (122,173)
	カラー	895 (277)
マイクロフィルム		9,848 (18,458)
写真撮影		4,202 (7,514)
計		126,388 (148,422)
月平均		10,532 (12,369)

○受付窓口別枚数

第5-22表

(単位: 枚)

種別	枚数
一般図書 カウンター	14,125 (16,585)
調査相談 カウンター	14,358 (18,127)
新聞雑誌室	43,692 (55,450)
みやぎ資料室	50,011 (50,746)
計	122,186 (140,908)

() は前年度

(8) 図書館間の相互協力

第5-23表 協力貸出冊数

(単位: 冊)

図書館名	22年度	23年度
仙台市民	763	588
仙台市広瀬	160	138
仙台市宮城野	302	165
仙台市榴岡	156	137
仙台市若林	340	237
仙台市太白	465	443
仙台市泉	604	465
石巻市	461	104
塩竈市民	476	302
気仙沼市	481	428
(気仙沼市) 本吉	107	74
白石市	706	622
名取市	1,152	79
角田市	869	568
多賀城市	962	539
岩沼市	288	441
登米市立迫	736	441
登米市立登米	166	115

図書館名	22年度	23年度
栗原市立	827	326
東松島市	591	251
大崎市	883	841
柴田町	618	495
蔵王町立	1,042	792
丸森町立金山	7	94
亘理町立	796	321
利府町	776	328
加美町中新田	145	204
加美町小野田	402	189
美里町小牛田	1,221	981
美里町南郷	147	237
南三陸町	527	587
小計	17,176	11,532
公民館図書室等	4,998	2,492
県外図書館等	1,026	567
合計	23,200	14,591

第5-24表 協力貸出冊数（県外図書館等内訳）

（単位：冊）

都道府県	22年度	23年度
北海道	161	127
青森	102	78
岩手	142	96
秋田	93	36
山形	117	40
福島	111	56
茨城	9	8
栃木	26	2
群馬	8	3
埼玉	17	19
千葉	30	6
東京	24	7
神奈川	4	1
新潟	22	6
山梨	5	1
長野	6	3
静岡	9	1
富山	2	0
石川	2	1
福井	0	3
岐阜	3	8
愛知	16	14
三重	22	18

都道府県	22年度	23年度
滋賀	10	0
京都	13	2
大阪	12	5
兵庫	2	1
奈良	0	0
和歌山	1	0
鳥取	2	0
島根	1	1
岡山	15	1
広島	4	3
山口	1	0
徳島	3	2
香川	1	1
愛媛	6	1
高知	2	0
福岡	12	7
佐賀	1	1
長崎	1	4
熊本	2	2
大分	0	0
宮崎	2	0
鹿児島	0	0
沖縄	4	2
計	1,026	567

	貸出冊数			貸受冊数				文献複写受付件数			文献複写依頼件数				協力レファレンス受付件数		
	県内へ	県外へ	計	県内から	県外から	国会から	計	県内から	県外から	計	県内へ	県外へ	国会へ	計	県内から	県外から	計
23年度計	14,024	567	14,591	482	154	11	647	1,013	700	1,713	0	40	41	81	50	9	59
前年度計	22,174	1,026	23,200	761	119	21	901	129	641	770	27	118	81	226	102	24	126

第5-25表 貸出依頼件数

処理状況		平成22年度	平成23年度	平成23年度の内訳	
				県内分	県外分
				貸出依頼件数	23,330件
所蔵件数	22,762件	14,375件	13,808件	567件	
購入	438件	216件	216件	0件	
借受・他館紹介等	5件	22件	22件	0件	
提供不可	125件	116件	75件	41件	

(9) 障がい者サービス

第5-26表 郵送貸出の利用

	新規登録		郵送貸出資料別									
			図書	朗読テープ	デジタル版	点字雑誌	ビデオ	CD	DVD	楽譜その他	合計	
23年度計	20人	利用件数	316件	95件	8件	46件	16件	198件	38件	7件	724件	
		利用冊数	1,147冊	191タイトル	769点	46タイトル	46冊	125冊	41点	543点	38点	12点
前年度計	12人	利用件数	386件	226件	36件	45件	31件	169件	9件	3件	905件	
		利用冊数	1,240冊	296タイトル	896点	10タイトル	36冊	112冊	111点	590点	9点	3点

第5-27表 音訳サービスの利用及び調査相談件数

		音訳サービス							調査相談件数
		朗読テープの作成		対面朗読		電話音訳		計	
		職員	ボランティア	職員	ボランティア	職員	ボランティア		
23年度計	実施件数	19件	20件	0件	2件	84件	115件	240件	607件
	のべ時間	24.0時間	232.0時間	0.0時間	4.0時間	59.2時間	104.6時間	423.8時間	
前年度計	実施件数	34件	39件	0件	0件	71件	133件	277件	649件
	のべ時間	68.0時間	274.0時間	0.0時間	0.0時間	28.9時間	213.6時間	584.5時間	

(10) 施設見学状況

第5-28表

	施設調査		一般見学		児童生徒見学		うち閉架書庫見学		調べ学習		職場体験		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
23年度計	2	87	7	81	18	575	21	582	0	0	8	23	35	766
前年度計	2	80	23	576	11	532	19	470	0	0	12	36	48	1,224

第7節 宮城県松島自然の家

1 目標

- (1) 被災した社会教育施設として、関係機関と連携しながら出前事業等を通して広く県民サービスに努め、生涯学習社会の構築に寄与する。
- (2) 被災した施設の資料や物品の回収及び整理・保管等を行うと共に、新施設再建へ向けて、検討・準備を進める。

2 目標達成のための指針

- (1) 被災地のニーズに応じた主催事業や出前事業の推進
 - ① 県民の一人ひとりが、自然体験や野外活動等とおして、豊かで生きがいのある生活を促進するため、精神的な充足感や新たな自己発見ができる企画運営を行う。
 - ② 県民のニーズに応じた出前事業のプログラムを開発する。
 - ③ 地域関係団体との連携による主催事業を推進するとともに、新たな活動プログラムの開発に努める。
 - ④ 文書や訪問による広報とちらしやリーフレット、ホームページを活用した施設利用の啓発・促進を図る。
 - ⑤ 専門性を高めるための職員研修を積極的に進める。
- (2) 施設再建へ向けた取組
 - ① 被災した施設のがれき撤去を進めるとともに、資料(データ)や使用可能な物品の回収・保管・整理に努める。
 - ② 施設再建へ向けて資料や情報の収集に努める。

3 組織と予算

(1) 職員の構成

所長	—	研修支援班長	事務職員 (1) 技師 (栄養士) (0) 社会教育主事 (2)	計5人

(2) 予算 (単位:千円)

項 目	金 額
管 理 費	3,704
事 業 費	50
施 設 設 備 費	0
合 計	3,754

(3) 収容人数

キャンプ場 (テント)	0人	※震災により使用できないため
宿泊室	0人	同 上

4 事業概要

(1) 主催事業

第5-29表

No	事業名	期 日	対象及び参加人数	ね ら い と 内 容
1	トレッキング in 松島	6月18日(土)	一般県民 (40人)	初心者の方を対象に、春の松島の景観を親しみながら、トレッキングの楽しさを味わう。
2	スポーツレクリエーションのつどい	7月10日(日)	一般県民 (57人)	ペタンクや、ユニカール、グラウンド・ゴルフなどのニュースポーツの体験をおして、参加者相互の交流を図り、健康づくりへの関心を高める。
3	初心者のためのフィッシング入門	9月10日(土)	小学4年生以上の子供とその親及び成人釣り初心者 (37人)	宮戸島海域をフィールドとして、初心者を対象に海釣りに必要な技能や仕掛け作り等を体験する。
4	心をつなぐ希望の灯りプロジェクト点灯式	9月11日(日)	一般県民 (200人)	震災後半年を機に、出前事業において作成したオリジナルランタンを点灯することにより、犠牲者の鎮魂と復興への思いを新たにする。
5	MAP体験会	10月2日(日)	一般県民 (20人)	心の復興を目指して、思いをつなぎ絆を深めるための人間関係づくりの手法としてのMAP (みやぎアドベンチャープログラム) を体験的に研修する。
6	グラウンド・ゴルフのつどい	11月13日(日)	一般県民 (30人)	ニュースポーツの一つであるグラウンド・ゴルフを体験することをとおして、参加者相互の交流を図るとともに、健康・体力づくりへの関心と意欲を高める。
7	クラフトinウィンター	12月17日(土)	一般県民 (20人)	流木アートなど、身近な素材からの思い思いの作品づくりに親しみ、参加者相互に鑑賞し合う。
8	絆を深めるレクリエーション入門	1月14日(土)	一般県民・社会教育・学校教育関係者等 (23人)	コミュニケーションを広げ、絆を深めるためのレクリエーションやゲームをの初歩について実践をおして学ぶ。
9	おいSEA! 冬の奥松島	2月18日(土)	一般県民(32人)	カキむき、塩づくり、海鮮バーベキュー等を体験し、冬の奥松島の自然の恵みを味わう。

(2) 利用状況

○ 出前事業	総件数	63件	※震災により被災し、施設利用は不可のため
	総人数	4,096人	

第8節 宮城県蔵王自然の家

1 目標

○教育目標

- (1) 蔵王の雄大な自然の中での体験を通して、心豊かでたくましく生きる力を備えた少年、即ち、
- ① 自然の美しさに感動し、自然を大切にす少年
 - ② 何事にもくじけない、強い意志と体力を持つ少年
 - ③ 互いに協力し、自ら生活を工夫し、他人を思いやる心を持つ少年の育成に努める。
- (2) 社会教育施設として、広く県民の利用をととして生涯学習社会の構築に寄与する。

○生活の指標

教育目標の達成を目指し、少年たちの自主的な活動をととして、「規律」「協同」「友愛」「奉仕」のこころをはぐくむことを生活指標とする。

(1) 規 律

自然の家の使い方や、自分たちで定めた約束を守り、みんなで楽しい生活をするための、集団生活の仕方を学ぶ。

(2) 協 同

自分たちの仕事に責任を持ち、互いに力を出し合っ一つ一つの活動をなし遂げ、助け合うことの大切さを学ぶ。

(3) 友 愛

協同生活をととして友達の良さを知り、お互いの存在を認め合うことの大事さに気づき、他人を思いやることの大切さを学ぶ。

(4) 奉 仕

自然の美しさを守るための行動及びスムーズな集団生活ができるよう進んで活動をし、他人のために仕事をするこの楽しさを学ぶ。

2 目標達成のための指針

(1) 教育内容の充実

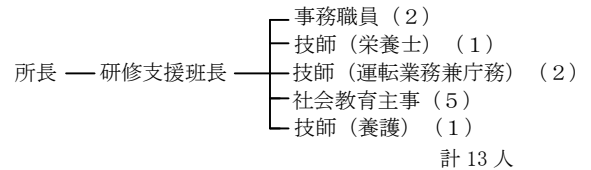
- ① 利用団体の主体的活動を進めるプログラム作成への支援及び学校週5日制への対応を推進する。
- ② 生涯学習社会の観点から、多様な利用に対応できるプログラムの開発やボランティアの養成に努める。
- ③ 魅力ある活動コースを開発・整備し、野外活動の活性化を図る。
- ④ 時代に対応した施設利用のあり方について工夫改善を図る。
- ⑤ セカンドスクールの実施など積極的な学校・社会教育施設及び大学との連携融合を図る。

(2) 広報活動の充実

- ① 施設の理解と利用の促進を図るため、広報活動を積極的に進める。
 - ② 社会教育諸団体及び関係機関との連携を深め、広く情報の提供に努める。
 - ③ 利用者向け「主催事業一覧」や「利用の手引き」等を作成し利用の促進を図る。
- #### (3) 施設・設備の整備、充実
- ① 活動しやすい設備の工夫と快適で清潔な環境づくりに努める。
 - ② 常に施設・設備の安全点検を行い、事故防止に万全を期する。

3 組織と予算

(1) 組 織



(2) 予 算

項 目	金 額 (千円)
管 理 運 営 費	36,317
事 業 費	1,728
施 設 整 備 費	1,696
合 計	39,741

(3) 収容人数

宿泊室 254人
 山小屋 120人
 テント 75人

4 事業概要

(1) 主催事業

第5-30表

① 幼児・小・中学生を対象とした事業

No.	事業名	期 日	予定対象者	参加者(人)		事業内容
				実人数	延人数	
1	青少年長期自然体験活動推進事業 (チャレンジin蔵王)	8月6日(土) ～8月12日(金)	小学5年～ 中学3年 42人	41	245	蔵王の大自然の中で、長期間のキャンプ生活や野外活動をととして、たくましく、主体的・自立的な生活をし、生きる力をはぐくむ。 (MAP活動、川遊び、イワナつかみ、地藏岳・刈田岳トレッキング、野外炊飯、星を見る会、肝試し、乳搾り、バター作り、南蔵王縦走、スコアオリエンテーリング、キャンドルサービス、壁掛けづくり等)

② 家族を対象とした事業

No.	事業名	期 日	予定対象者	参加者(人)		事業内容
				実人数	延人数	
1	蔵王で発見・体感・感動 -春-	東日本大震災のため中止	小学生か中学生の子どもと親 30組 100人			蔵王の自然に親しむと共に、植物観察等を通して、親子の触れ合いや他家族との交流・親睦を図る。
2	蔵王で発見・体感・感動 -夏-	7月30日(土) ～31日(日)	小学生か中学生の子どもと親 30組 100人	85	170	蔵王の自然の中で、野外生活に親しみながら、親子の触れ合い、他家族との交流・親睦を図る。
3	蔵王で発見・体感・感動 -秋-	10月15日(土) ～16日(日)	小学生か中学生の子どもと親 30組 100人	100	200	野外活動を通して、秋の自然に親しみながら、親子の触れ合い、他家族との交流・親睦を図る。
4	蔵王で発見・体感・感動 -冬-	2月4日(土) ～5日(日)	小学生か中学生の子どもと親 30組 100人	101	202	冬山の美しさにふれながら、雪遊びや歩くスキーを楽しみ、親子の絆を深めるとともに他家族との交流・親睦を図る。
5	家族のつどい	①7月9日(土) ②7月10日(日) ③7月16日(土) ④10月29日(土) ～30(日) ⑤1月14日 ～15日(日)	家族15組 50人	① 116 ② 109 ③ 100 ④ 37 ⑤ 40	① 116 ② 109 ③ 100 ④ 74 ⑤ 80	蔵王の自然の中で、親子で自然体験活動に親しみ、親子の触れ合いとその絆を深める。 (登山とハイキング、野外炊飯、Eボート体験、沢遊び、自然物を使った創作活動、ニジマスつかみ、芋煮会、レクリエーション大会、雪遊び、アルペンスキー等)

③大学生・社会人・指導者を対象とした事業

No.	事業名	期 日	予定対象者	参加者(人)		事業内容
				実人数	延人数	
1	野外教育施設ボランティア養成講座 ～企画・実践講座～	①7月16日(土) ～17日(日) ②10月29日(土) ～30(日) ③1月21日 ～22日(日)	大学生・社会人 20人	① 15 ② 12 ③ 9	① 30 ② 24 ③ 18	蔵王自然の家でのボランティア活動の希望者が、野外活動の基礎的技能や知識を習得し、利用者への支援が円滑にできるようにする。
2	スキー指導者研修会	1月6日(金)	利用団体活動引率者及び大学生・社会人	46	46	冬季間の自然の家におけるスキー活動の指導希望者および引率者を対象に、児童・生徒へのスキー指導の心構えと指導場所等の確認をし、併せて資質の向上を図る。
3	利用事前研修会	東日本大震災のため中止 東日本大震災のため中止 6月30日(木) 11月18日(金) 12月11日(日)	4月利用の学校・各団体 5月～7月12日利用の学校・各団体 8月1日～夏休み8月利用の学校・各団体 8月25日～11月1月利用の学校・各団体 冬利用の学校 冬利用の学校以外の各団体	64 28 16	64 28 16	蔵王自然の家の利用の仕方、活動プログラムの立案、野外活動の指導方法等について研修を深めるとともに、同期日利用団体相互の各種調整を行う。
4	いきいき登山教室	①7月3日(日) ②8月27日(土)～ 28(日) ③10月9日(日)	50歳以上の方 25人	① 30 ② 24 ③ 26	① 30 ② 48 ③ 26	登山に関する基礎技術を習得し、蔵王の美しい山々を登山しながら、同好の士と交流し親睦を深める。
5	みやぎアドベンチャープログラム体験会 (MAP講習会Ⅲ)	諸事情により中止	社会教育主事・青少年教育指導者 *MAPⅡ修了者 25人			各自の実戦経験を基にグループを支援し合うことで、MAPの理論をより深く理解し、支援者としての技量の向上を図る。

(2) 利用状況

第5-31表

項目 月	開所 日数 (日)	利用 日数 (日)	宿泊 可能日数 (日)	宿泊 利用日数 (日)	利用 団体数 (団体)	利用者実数					利用者 延人数 (人)	宿泊 利用者延人数 (人)	宿泊 者延人数 (人)	日帰り研修	
						利用者延人数								団体 数 (団体)	延 人数 (人)
						中学生 以下 (人)	高校 生等 (人)	引率者 (人)	一般 (人)	合計 (人)					
4月	26	2	0	0	2	0	0	0	6	6	6	0	0	2	6
						0	0	0	6	6					
5月	27	20	23	13	33	449	28	55	135	667	1,164	1,008	497	25	156
						807	56	99	202	1,164					
6月	26	26	22	16	43	1,163	3	139	175	1,480	2,942	2,747	1,462	18	195
						2,462	6	279	195	2,942					
7月	29	28	26	18	46	1,066	13	127	401	1,607	2,802	2,272	1,195	23	530
						2,025	24	269	484	2,802					
8月	27	25	24	20	55	872	16	87	312	1,287	2,614	2,203	1,327	25	411
						1,820	38	182	574	2,614					
9月	29	29	28	26	54	2,030	32	261	212	2,535	5,952	5,878	3,417	2	74
						4,790	54	563	545	5,952					
10月	27	24	23	18	38	1,318	42	126	263	1,749	3,080	2,355	1,331	13	725
						2,370	84	233	393	3,080					
11月	26	18	22	10	14	82	0	4	238	324	588	485	264	5	103
						160	0	8	420	588					
12月	24	12	19	6	10	92	10	8	214	324	617	567	293	1	50
						184	30	16	387	617					
1月	24	23	20	14	68	711	31	151	644	1,537	2,501	1,742	964	40	759
						1,328	48	294	831	2,501					
2月	25	23	21	18	58	684	18	110	389	1,201	2,489	2,259	1,288	22	230
						1,508	24	229	728	2,489					
3月	27	14	20	7	24	146	45	25	105	321	610	514	289	16	96
						244	123	36	207	610					
累計	317	244	248	166	445	8,613	238	1,093	3,094	13,038	25,365	22,030	12,327	192	3,335
						17,698	487	2,208	4,972	25,365					

第9節 宮城県志津川自然の家

1 目標

- (1) 「健康・規律・友愛・奉仕」の心を育む自然の家の実現を目指す。
- (2) 施設の果たす役割を十分に認識し、心豊かな実践力のある青少年の育成を図る。
- (3) 「出会い ふれ愛 磨き合い」を大切にし、研修生自らが積極的に学ぶことができる環境づくりに努める。
- (4) 社会教育施設として、広く県民の利用をとおして生涯学習社会の構築に寄与する。

2 重点

- (1) 海洋型自然の家としての特色ある主催事業の推進
 - ① 青少年に活動と交流の場を提供するとともに、長期的な視点に立って、多様化した青少年の学習活動を支援・促進する。
 - ② 広く県民に参加を呼びかけ、満足感や自己発見ができる事業を推進する。
 - ③ 志津川湾の海の魅力にふれるとともに、豊かな環境とその恵みを大切に思う心育む事業を推進する。
 - ④ 学校教育との連携を図り、児童・生徒の「生きる力」を育む共同宿泊体験事業を推進する。

(2) 研修生の自主的な研修活動に対する効果的な支援

- ① 事前打合せを綿密に行うとともに、「利用団体指導者事前研修会」を実施し、利用者の研修目的に沿った計画の作成を支援する。
 - ② 研修時は、事故防止の徹底を図るとともに、研修効果を高められるように配慮する。
 - ③ 地域との連携を密にし、必要な情報の収集と発信に努め、利用者の多様な活動を支援する。
 - ④ 学社融合を推進し、セカンドスクールとしての利用や「総合的な学習の時間」の活動を積極的に支援する。
 - ⑤ 県民の多様な要望に対応できる魅力的で幅広い研修プログラムを研究・開発する。
 - ⑥ MAP（みやぎアドベンチャー・プログラム）の指導者養成に努める。
- (3) 利用者の立場に立ったサービスの向上
 - ① 研修生には誠意をもって対応し、笑顔をやささないよう心がける。
 - ② HPの充実など広報活動に力を入れ、施設の理解と利用の促進を図る。

- ③ 施設環境の整備に力を注ぐとともに、常に施設・設備の安全点検を行い、事故防止に万全を期する。
- ④ 職員研修を積極的に推進し、専門性を生かした研修支援に努める。

3 組織と予算

(1) 職員組織

所長 — 次長 (班長)	<ul style="list-style-type: none"> — 事務職員 (2) — 技師 (運転技術兼庁務) (1) — 技術主査 (栄養士) (1) — 社会教育主事 (4)
計 10 人	

(2) 予算

項 目	金 額 (千円)
管 理 経 費	27,193
主 催 事 業 費	2,573
施 設 整 備 費	1,581
合 計	31,347

(3) 収容人数

宿泊定員100人

4 事業概要

(1) 主催事業

第5-32表

No.	事業名	期 日	実 績	ねらい・主な研修内容
1	出前ノルディックウォーキング	第1回 6月19日(日) 第2回 7月10日(日) 第3回 7月16日(土) 第4回 8月20日(土) 第5回 10月1日(土)	避難所・仮設住宅入居者 1回目 16人 2回目 14人 3回目 27人 4回目 36人 5回目 30人	積極的に運動に取り組む習慣づくりのひとつとして、ノルディックウォーキングに親しむ機会と市民交流の場を提供し、避難所・仮設住宅入居者の心身の健康保持・増進に貢献する。 (1・2回目：志津川自然の家野鳥の森コース、3回目：気仙沼市総合体育館周辺コース、4回目：登米市米山町平筒沼ふれあい講演コース、5回目：気仙沼市総合体育館周辺コース)
2	海青グラウンド・ゴルフ大会	第1回 8月24日(水) 第2回 9月27日(火) 第3回 11月30日(水)	一般成人 1回目 18人 2回目 27人 3回目 23人	誰でも気軽にできるグラウンド・ゴルフをとおして、体力づくり・健康の増進と参加者相互の親睦を図る。 (第1・2回：「道の駅」津山 もくもくランド、第3回：志津川自然の家体育館)
3	オートムIN志津川	10月8日(土)～9日(日)	一般成人 28人	野鳥の森でのキノコや植物の観察、磯の散策等を通して、自然の素晴らしさや大切さを学び関心を高める。 (里山散策とキノコ採集等)
4	志津川自然の家オープンデー	10月23日(日)	地域住民 14人	地域の方々に自然の家を開放し、様々な活動を体験してもらうことにより、自然の家への理解をより深めるとともに利用拡大を図る。 (グラウンド・ゴルフ、石ころアート、いしりやり作り、等々)
5	秋色ノルディックウォーキングin平筒沼	10月30日(日)	一般成人 43人	自然を満喫しながら、ノルディックウォーキングの理論と実技を体験する機会を提供し、健康で豊かなライフスタイルづくりの実践意欲を醸成する。
6	海の味覚 ～親子でくん製作～	11月5日(土)～6日(日)	親子 23人	志津川湾の海の幸を親子や仲間調理し、賞味して、海の恵みの素晴らしさを知る。(イカ燻製作、カキ・ホタテ剥き体験、シーフードパーベキューと神割崎鍋等)
7	屋内グラウンド・ゴルフ大会	第1回 11月23日(水) 第2回 12月18日(日) 第3回 1月29日(日)	小学生以上 1回目 11人 2回目 20人 3回目 25人	ニュースポーツのグラウンド・ゴルフ体験をとおして、交流を深めながら、運動に親しむ。
8	親子で星座観察 ～輝きいっぱい！ 天空のロマンを求めて～	11月26日(土)～27日(日)	親子 31人	四季折々の星座などを調べたり、冬の星座を観察することにより、星座に対する関心を高める。また、星座から宇宙の広大さなどを実感するとともに、豊かな自然を感じ取る心を育てる。
9	ジュニア・リーダー 上級研修会	12月25日(日)～27日(火)	ジュニア・リーダー 上級取得者 32人	中級研修修了者で、市町村教育委員会の推薦者及び指導者で少年団団活動にかかわっている者を対象に実施し、ジュニア・リーダーとしての資質の向上を図る。
10	南三陸の香り、味	1月14日(土)～15日(日)	一般成人 28人	南三陸志津川の自然や味にふれることにより、南三陸の良さを知る。 (くん製作、カキ・ホタテむき体験、シーフードパーベキュー、海鮮鍋等)
11	ノルディックウォーキング in入谷	1月22日(日)	小学生以上 38人	自然を満喫しながら、ノルディックウォーキングの理論と実技を体験する機会を提供し、健康で豊かなライフスタイルづくりの実践意欲を醸成する。

				成する。
12	バードウォッチング入門	第1回 2月11日(土) 第2回 3月4日(日)	県民 1回目 5人 2回目 10人	自然の素晴らしさを感じながら、野鳥の見分け方や観察方法を学び、実践をとおして身に付ける。
13	ノルディックウォーキング in 戸倉	2月19日(日)	小学生以上 27人	自然を満喫しながら、ノルディックウォーキングの理論と実技を体験する機会を提供し、健康で豊かなライフスタイルづくりの実践意欲を醸成する。

(2) 利用状況

第5-33表

項目 月	開所 日数 (日)	利用 日数 (日)	宿泊 可能日数 (日)	宿泊 利用日数 (日)	利用 団体数 (団体)	利用者実数					利用者 延人数 (人)	宿泊 利用者 延人数 (人)	宿泊 者延 人数 (人)	日帰り研修		
						利用者延人数								団体 数 (団体)	延 人数 (人)	
						中学生 以下 (人)	高校 生等 (人)	引率 者 (人)	一般 (人)	合計 (人)						
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	26	17	22	1	24	88	2	8	302	400	440	80	40	23	360	
						117	4	10	309	440						
10月	26	21	21	2	33	115	175	16	921	1,227	1,293	132	66	31	1,161	
						115	175	18	985	1,293						
11月	26	22	22	3	44	75	3	14	1,164	1,256	1,324	136	68	41	1,188	
						108	3	20	1,193	1,324						
12月	24	24	20	5	59	127	47	17	1,071	1,262	1,479	401	217	53	1,078	
						235	120	32	1,092	1,479						
1月	24	24	20	4	56	74	27	10	951	1,062	1,214	281	152	52	933	
						124	66	16	1,008	1,214						
2月	25	25	21	0	58	29	2	3	687	721	721	0	0	58	721	
						29	2	3	687	721						
3月	27	27	23	5	54	69	50	19	877	1,015	1,207	333	192	50	874	
						142	135	45	885	1,207						
累計	178	160	149	20	328	577	306	87	5,973	6,943	7,678	1,363	735	308	6,315	
						870	505	144	6,159	7,678						